平成 29 年 2 月 28 日(火)
練馬区立開進第四小学校
校 長 佐 々 木 秀 之

日 本 語 の 乱 れ

校 長 佐 々 木 秀 之

暦の上ではもうすぐ啓蟄を迎えようとしていますが、近隣の学校ではまだインフルエンザによる学級閉鎖をしている学校もあるようです。できる限り、感染を防ぐことができるよう、今後も十分配慮してまいりますので、ご家庭でのご協力をよろしくお願いいたします。

さて最近、「日本語の乱れ」に関する話題をよく耳にします。「ら抜き言葉」 「若者言葉」「ギャル語」「バイト敬語」など、創られた日本語が数多く存在しています。 例えば、「ご注文はこちらでよろしかったでしょうか？」「その仕事はぜひ私にやらさせてくだい」「〇〇大学に行きたいと考えてます」「出張、ご苦労様でした」「私には役不足なので、そのような大きな仕事は辞退します」など…。

これらの誤った日本語の使い方には、一つは『言葉を知らないこと』、もう一つは『ていねいすぎること』の二つの原因があると言われています。

『言葉をしらないこと』について、上の文の「考えてます」は “い抜き言葉”。「ご苦労様」とは本来、目上の人が苦労をかけた人をねぎらう言葉。「役不足」とは、その人の力量に比べて、役目が軽すぎることを意味します。これらは言葉を知らないことが原因と考えられます。

『ていねいすぎること』については、「よろしかったでしょうか？」という言葉遣いは、レストランなどで店員が注文内容を復唱する際によく聞かれますが、ただしくは「よろしいでしょうか？」と尋ねるべきです。また、「やらさせてください」というのは、「さ」が余分で、「やらせてください」が正解ですが、ていねいにしようと余計な言葉が加わってしまっています。

明治前期の旧制高等学校や大学の男子生徒は外国語や漢語（「僕」「君」「失敬」など)、「～したまえ」など「書生言葉」と呼ばれる特徴的な仲間内言葉を用い、のちに堅く気取った男性語の原型となっています。古くは清少納言の『枕草子』にも若者の言葉の乱れを嘆く一節があるなど、日本語の乱れは現代に始まったことではありません。

言葉は人と人とがコミュニケーションを図るためのツールです。自然を表す語彙が多いといわれ、相手に敬意を示す言葉を使い分ける正しい日本語を知った上で、相手に不快感を与えない言葉遣いをしたいものです。